

いつ
でも

No. 17 宇治十帖ロマン回想 物語り順に巡る

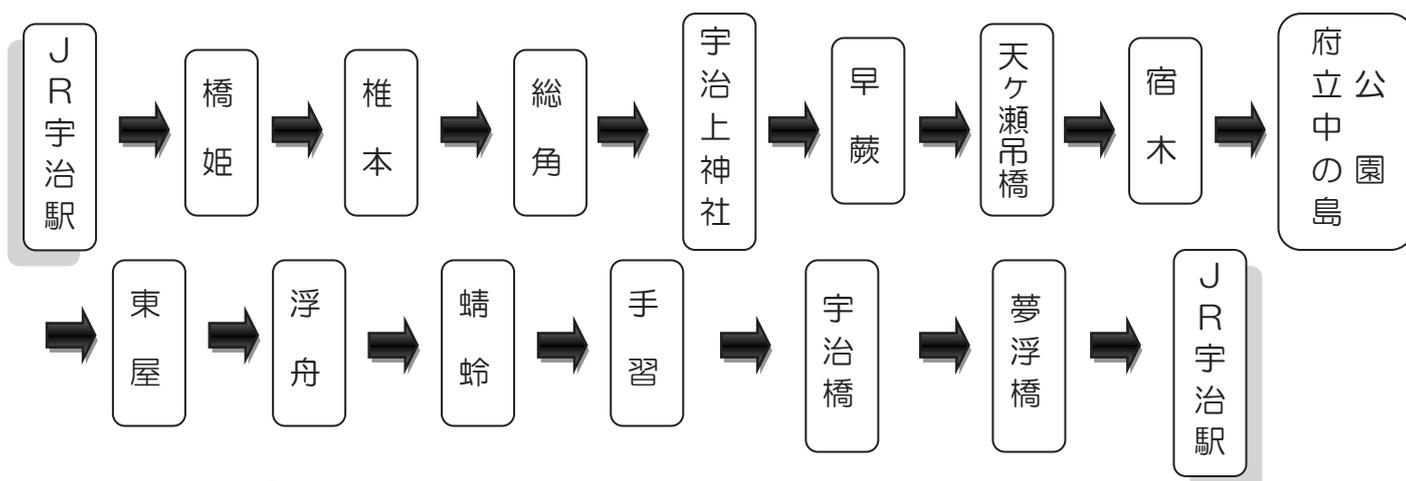
自然

歴史

源氏物語

おすすめポイント

源氏物語宇治十帖には、橋姫が愛し姫となり大君、中君の二人の姫君として登場。いま紫式部像が宇治十帖の最終章、夢浮橋に迷い込む薫君を見守っている。宇治川の激しい流れにもいやまして小舟にたゆとう匂宮と浮舟は、朝霧橋たもとのモニュメントに睦まじく寄り添う。総角・早蕨の古跡を辿れば、透垣から垣間見の薫君の艶やかなお姿や、妙香に総角結びをゆわえながら、妹を想う大君のお心に、はるか蜻蛉のあたりからか、鐘の音がよみがえってくるようです。



ここに注目



●宇治十帖モニュメント

ヒロイン「浮舟」と「匂宮」が小舟で宇治川に漕ぎ出す場面をモチーフにしたもので、背面には屏風を形どった「橋姫の帖」の垣間見の絵巻が浮き彫りに、薫君、大君、中君と登場人物が描かれている。



●総角結び

古代、少年の髪のかんむり（結）の結び方を言う。また人と人との縁を結ぶ縁起のいい結びで、鎧や御簾、文箱などの飾りに使われてきた。薫君が大君への想いを詠んだ和歌“総角に長き契りを結びこめおなじ所によりもあはなん”

